

# 片瀬のぞみだより

## 10月主題「つながって」

### 10月主題聖句

「羊は一人の羊飼いに導かれ、一つの群れになる。」

以前北海道の岩見沢にいた時、教会関係者に牧場を経営されている一家族がおられました。酪農の厳しさ、大変さを目の当たりにしてきました。うちの牛乳が一番うまいのだぞ、もっと飲めと浪波と注いでいただいたことに閉口したことでした。わたしは生来牛乳が飲めませんでしたが無理していただいたのがこの様でした。

彼らは牛とは言いません。「生きもの」と言います。その生きもののために休みなく世話をし続けるのです。真冬の牛舎は生きものので暖かいが外は厳寒です。乳房炎にならないように冷たい水で拭く作業も大変なことです。

羊飼いは草と水を求めて一年中移動する遊牧民族です。羊の特性、性格、くせを熟知して一頭一頭に愛称の名前をつけるのです。

羊の視野は広く 270° から 320° と言われています。しかし左右の視野の重なる部分は奥行き認知がうまくない、要するに近眼です。また上に上に登る癖があります。ですから群れからはぐれて迷うことがしばしばです。また羊は青い草のみならずその根まで食べ尽くしてしま

ます。種類によりますがふさふさとした毛が伸

ヨハネによる福音書 10 章 16 節

びて転ぶと自力で立ち上がることができないそうです。争うことなく、おとなしい臆病な性格です。またしばしばパニックを起こします。

主イエスは当時最も卑しい職業のひとつであった羊飼いに焦点をあてて自分が良い羊飼いであると言われました。良い羊飼いが命がけで羊を守り、愛し、導く姿、また羊は羊飼いの声を聞き分け、従う姿を通して主イエスとわたしたちとの関係を示してくださいました。その中で意外なことが語られています。それは「わたしには、この囲いに入っていないほかの羊もいる。その羊をも導かなければならない。その羊もわたしの声を聞き分ける。こうして、羊は一人の羊飼いに導かれ、一つの群れになる。」です。

主イエスは自分の担当ではない羊をも、導き守り支えてくださるのです。守備範囲を越えて命がけでお世話をしてくださいます。それがやがて囲いの内側の羊も、部外の羊も一つの群れとなって歩いていくのです。羊飼いであるイエスさまにつながって生きていきましょう！

西田直樹